

2021年度市民意識調査 調査結果のポイント



名張市の住みごちについては 85.9%の方が住みごちがよいと感じており、例年より高い数値となっています。

また、名張市での継続居住意向についても、83.3%の方が名張市に住み続けたいと回答しており、昨年度より高い実績値となりました。

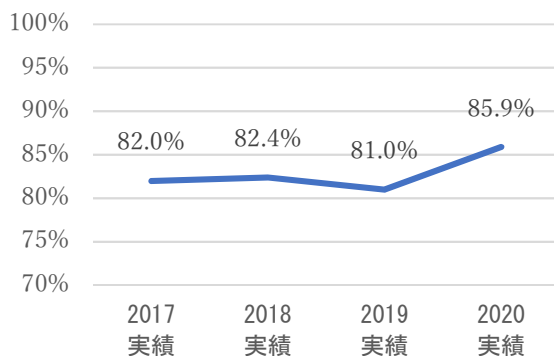
世代を問わず、「自然豊かな生活環境」や「地域への愛着」、「日常生活の利便性」を理由にしている方が多いです。

反対に名張市外へ移りたいと回答した方は、「日常生活に不便であること」や「医療環境への不安」、「働く場所の少なさ」を理由にしています。



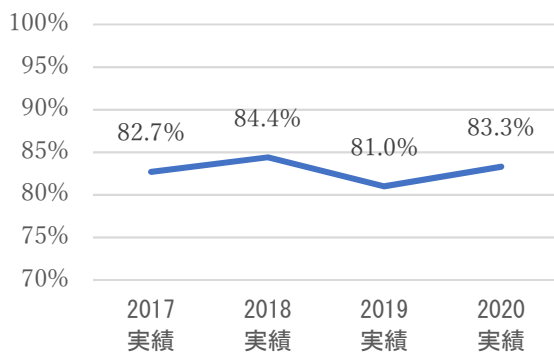
名張市の住みごち（問1）

名張市が「住みよい」「どちらかといえば住みよい」とする市民の割合



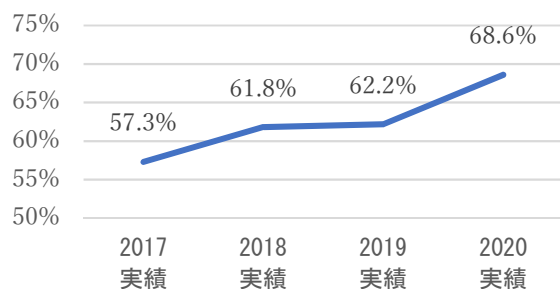
名張市での継続居住意向（問2-1）

名張市に「ずっと住み続けたい」「当分の間住み続けたい」「市内の別の地区に移りたい」とする市民の割合



子育て・子ども支援（問10-3）

市内の保育施設や子育てサービス、相談窓口等の子育て支援施策に満足している市民の割合
(2022年目標：65.0%)



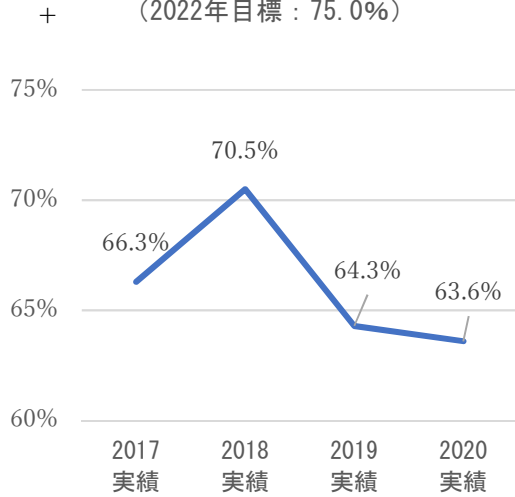
子育て・子ども支援については世代を問わず上昇傾向にあります。

子育て世代以外の年代でも満足度が高く、世代を問わず子育てに関する理解が進み、市民の皆さんが主体となって地域ぐるみで子育てを推進する取組の成果が表れています。



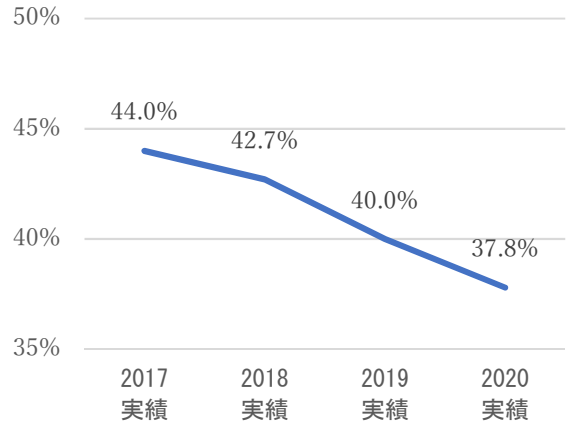
保健・医療・福祉ネットワーク(問9-1)

隣近所や地域の人との交流があると
感じている市民の割合
(2022年目標：75.0%)



文化振興(問8-18)

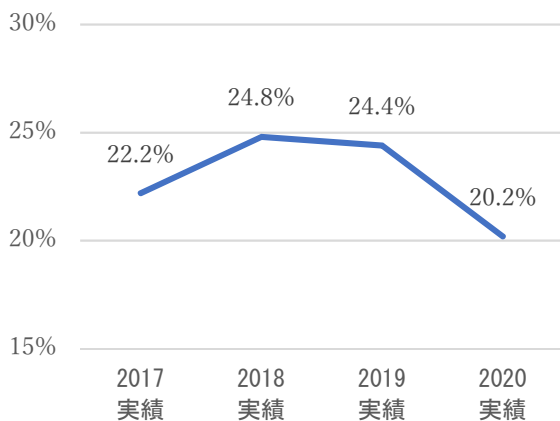
市民による自主的な文化芸術活動が
活発に行われていることで、
身近に文化や芸術に接する機会がある
と感じている市民の割合
(2022年目標：47.0%)



隣近所や地域の人との交流があると感じている方の割合が低くなっており、コロナ禍における外出の自粛や三密の回避など、感染防止対策の影響がうかがえます。
また、趣味や文化芸術活動の場、地域づくり活動の場の減少もあり、人との繋がりに関する指標が全体的に低くなっています。

市民公益活動の促進(問4)

NPOやボランティア等の市民公益活動
に参加したことがある市民の割合
(2022年目標：32.0%)



都市内分権の推進(問3)

地域づくり組織・区・自治会などの
地域づくり活動に参加したことの
ある市民の割合
(2022年目標：62.8%)

